



## 年頭のご挨拶

社団法人山梨県自動車整備振興会  
山 梨 県 自 動 車 整 備 商 工 組 合  
会 長 荻 原 公 明  
理事長

平成24年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、3月11日に発生した東日本大震災は、地震・津波共に千年に一度という規模となり、更にこれに伴う原発事故の発生と、人的・経済的な被害はかつて例を見ない大災害となりました。今もなお、人々の生活や経済基盤に大きな影響が続いております。さらに、国内外の台風や集中豪雨による洪水被害など、多くの自然災害に遭遇した多難な1年でありました。

一方、景気状況は世界的な景気減速に加え、欧州での信用不安等、先行き不透明な状況にあります。また、急激な円高による輸出産業への悪影響をはじめ、今後とも厳しい状況が続くものと危惧されます。

政府には被災地の復興をはじめ、力強い経済回復に向けた施策の実施を願い、日本経済の活力が取り戻せるよう切に期待いたします。

こうした中、自動車の保有状況は、継続するデフレ経済や将来の生活防衛意識もあり、保有車両の長期使用化が進んでいます。また、ハイブリッド車をはじめとする先進環境対応車や、車両価格の安い小型車や軽自動車の占める割合が増加しており、この傾向は今後も進むものと思われます。

このように、自動車を取り巻く環境が大きく変化する中、本年も整備業界が取り組まなければならない課題は山積しております。本年は、業界振興・活性化に向けて、「自動車整備業のビジョンⅡ」の普及浸透を図ります。引続き、利用環境の改善を進め、施設の利便向上に努めます。また、次世代車への技術対応が急がれる中、技術者の養成を進める上で、教育研修施設の拡充を進めて参ります。振興会・商工組合としては、自動車ユーザーが常に安全で快適にクルマをお使いいただけるよう、整備事業としての社会的役割を果たしつつ、業界全体のさらなる発展を目指して取り組んで参る所存であります。

さて、振興会・商工組合は、昨年12月17日で創立60周年を迎えました。経済・産業構造の大転換期にあり、尚且つ、幾多の試練の中での「還暦」を迎えました。これも偏に業界の諸先輩方をはじめ、会員各位のご尽力によるものと深く感謝する次第であります。

この創立60周年を契機に更なる業界の発展と、今を新たな起点とし、将来を描く節目として、創立60周年記念式典を来たる1月28日に開催致します。現在、準備の最終段階にありますが、万障お繰り合わせを頂き、多くの会員の皆様と祝賀を共に致したいと存じます。

本年も、整備事業の社会的地位向上を目指すとともに、業界の繁栄・活性化を目指して参りたいと思います。

会員・組合員の皆様には、一層のご支援ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

最後に、関係ご当局、関係機関の変わらぬご指導と関係団体のご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様の益々のご発展を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 平成24年年頭の辞

関東運輸局山梨運輸支局  
支局長 川口 千晴

新年明けましておめでとうございます。  
年頭にあたり新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、3月11日に発生しました東日本大震災の地震、津波による被害や福島第一原発の事故による間接的被害など、未曾有の大災害となり、日本のみならず世界の歴史に残る年となりました。

改めまして、震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

山梨県におきましても、この大震災により、観光客の減少、特に外国人観光客が大幅に減少し、ホテル・旅館のみならず貸切バスなどの運送事業も大きな影響を受け、観光立県としては非常に厳しい状況に置かれてましたが、交通、運輸関係事業者の皆様のお力により地震発生直後から、公共交通機関の輸送確保や復旧、さらには緊急物資の輸送など、震災の復興、復旧に全力を傾けていただき、心より感謝申し上げます。

今後も引き続き、社会・経済情勢なども念頭におきながら、社会の要請に的確に対応した行政を推進し、その責務を果たす所存でありますので、皆様方の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

整備事業関係につきましては、10年を超える長期使用車が増加する中、自動車の安全安心を確保するためには、確実な点検整備が必要不可欠であることから、整備事業の健全な育成に努めてまいります。特に指定整備事業者によるペーパー車検など、自動車整備事業者による不正行為を根絶するため、今後も引続き各種研修会等あらゆる機会を捉え、コンプライアンスを徹底し、適切な事業運営を行うよう強力な指導を行うとともに、効果的な監査を実施し、悪質な違反行為等を行った整備事業者に対しては厳正な行政処分を行ってまいります。

また、点検・整備の必要性や不正改造の防止について、自動車ユーザー等にご理解いただけるよう、「自動車点検整備推進運動」及び「不正改造車を排除する運動」を積極的に展開するとともに、爆音をまき散らしたり過積載を助長したりするような不正改造車の排除、不正軽油燃料の取り締まりのため、関係機関との連携を図り、積極的に街頭検査を実施して安全で環境にやさしい車社会の形成に向け取り組んでまいります。

自動車の検査につきましては、自動車検査独立行政法人と連携を図りながら自動車検査の高度化を推進し、不正な二次架装や不正受検を排除するとともに、受検者に対して不合格内容を的確に情報提供するなど、自動車の安全・安心の確保と環境保全を図りつつ、質の高い利用者サービスの提供を促進してまいります。

また、地球温暖化問題に対する意識の高まりに加え、東日本大震災を契機として太陽光などの自然エネルギーを活用する動きが活発化する中、電気自動車の導入が盛んになってきており、特に低コストで既存車両を有効に活用できる等の利点から、エンジンや燃料タンクを取り外して、モーターと電池を取り付ける電気自動車への改造（EVコンバージョン）が新たなビジネスとして注目を集めていることから、昨年策定されたコンバージョンEV改造車の安全性、信頼性を確保するためのガイドラインによる関係者への指導を通じて、安全で安心して使用できる環境対応車の普及促進を図ってまいります。

さらに、窓口業務の適正化・効率化を推進し、窓口行政サービスの向上に努めるとともに、自動車検査業務における受検者等からの不当要求に対しては、自動車検査独立行政法人と警察当局と連携して毅然たる態度で臨み、検査業務の適正な実施に努めてまいります。

以上、新年を迎えるにあたり、山梨運輸支局としての主要施策と所感の一端を申し上げましたが、

当支局では職員全員が一丸となって、山梨県の安心・安全のため、また、自動車関係業界等の活性化のために国土交通行政を推進してまいりますので、今後も引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます



## 新 年 の あ い さ つ

軽自動車検査協会山梨山梨事務所  
所 長 齋 藤 作 造

新年あけましておめでとうございます。

平成24年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は、軽自動車検査協会の業務運営に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年は、未曾有の東日本大震災があり、福島原発の事故による計画停電の実施等で貴会員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。大きな混乱もなく業務を遂行することができました。これも偏に皆様方のご理解、ご協力の賜物と深く感謝する次第でございます。

さて、昨年の軽自動車の新車販売台数ですが、一昨年のエコカー補助金制度の終了及び昨年の大地震による影響で前年を下回りましたが、徐々に回復の兆しが見えてきました。

また、自動車保有台数につきましては右肩上がりで推移しており、昨年11月末現在、全国の保有台数は2,755万台(同2.0%増)に達し100世帯当たりの台数も87台と普及しています。

このように、今後も使いやすく経済的な軽自動車は、県民の日常生活の足として欠かせないものとなっており、より一層定着して行くものと思われます。

それに伴い、本年の継続検査台数も昨年同様増加すると予想されますが、構内等輻輳しないように体制を整え、混雑緩和に努めてまいりますので、貴会員の皆様には計画的に受検して頂きますようお願いいたします。

本年も当協会は、自動車の安全性の確保、公害防止等の環境保全を図るため、厳正、公正な検査を行うとともに、これからも利用者に対するCSの向上に職員一同努めてまいりますので、今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

終わりにあたりまして、山梨県自動車整備振興会の益々のご繁栄と貴会員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。